

# 信じて運んでこそ 神の働く道が付く

# ひきよせ



合祀祭出発前の話所玄関にて。その他、部内ようぼく、信者が参列した（10月24日）

発行所  
天理教夕張大教会  
〒068-0029 北海道  
岩見沢市9条西6丁目21  
☎ 0126-22-1248  
FAX 0126-23-7275  
yubaridai146@gmail.com  
ホームページ  
bariten.main.jp



LINE 友達登録  
お願いします



部内の名称提灯が、所狭しと飾られた  
（10月15日大教会秋季大祭、記事2頁）

ここに霊様方の長年に渡る労を讃え、どうか先々まで、後に続く皆をお見守り下さいと願う。  
（藤田豊）

去る10月24日正午より、文雄前会長様始め、夕張部内十一柱の霊様方の合祀祭が、松田理治世話人先生祭主の元、厳かに執り行われた。  
話所会長宅に設けられた仮祭壇より、前会長様の霊璽を清水国朝副祭主が捧持なされ、本部へ移動。これに藤田好道話所主任が帯同した。  
祖霊殿に到着すると、霊璽は松田祭主の手により祖霊殿のお社に納められ、献饌に続いて、祭文が奏上された。祭主の参拝、副祭主及び祭員の列拝に続いて、大教会長、会長夫人、大教会前世話人喜多秀和先生、遺族、親族が参拝し、最後に夕張大教会一同を代表して梶川卓一役員が参拝。その後、神殿、教祖殿、祖霊殿へお礼参拝の後に、祭主より挨拶を賜り、つつがなく合祀祭はつとめ終えられた。

## 秋の本部大祭を前に 本部祖霊殿合祀祭執行

### お知らせ

冬のお楽しみ会 11月23日（日）  
月次祭 12月15日（月） 9時30分開扉献饌  
大掃除・餅つき 12月28日（日） 午前10時〜

# 底なしの親切を目指して

## 秋季大祭の様

過去の神殿講話は、右のQRからご覧いただけます



10月に入って、一気に気温が下がり北海道は早くも晩秋の様相となつて、寒さを感じる日が多くなつた。迎えた15日もピンと冷たい空気が漂う中、外には雪虫がちらつき、冬の近付きも感じさせる日であった。神殿の軒下には、コロナ前以来となる、全教会の名称提灯がずらりと吊り下げられ、秋の大祭を祝う久々の光景に集まつた参拝者達は目をやっていった。

定期9時半より開扉献饌。祭儀式のち祭文奏上。その後、座りづとめ・十二下りのてをどりが勤められた。はじめ、備え付けられたストーブで暖を取っていたが、勇んで勤められるおつとめや参拝者の熱気で、次第に参拝場は暑さを感じるほどになった。

大教会長は講話に先立ち、先日出直された中村清・前北弘分教会長について触れ、長きに渡り、欠かさず大教会祭典のご神饌を整えて下さった清先生のお姿を偲び、

殿内の皆と黙祷を捧げた。

講話では「神一条の考え方を身に染み込ませたい。毎日真面目に生きて、日常の全てに親神様の想いを立てて考えられる様になりたい。今月の上旬、教会へ遅く戻った私に中1の長男が、神殿廊下の窓ガラスが割れたと話しました。大教会は毎夜8時頃まで神殿に明かりを点け、参拝者が入れるようにしていますが、長男がその電気を消す為に神殿へ走り、スイッチを触る際に体勢を崩して窓に背中がぶつかつたと。私は『電気を消しに行つてくれてありがとう。ケガしてないなら良かったから何も気にするな』と伝えました。息子は神殿の事に気を配ってくれての事、これは何か意味があると考えつつ、いつもこういう時に窓を持ち込み修理して貰っていた、地元のガラス会社に電話しました。何日か後、会社の倉庫で職人さんに窓ガラスを入れて頂き、本社事務所で代金を払い『とても

助かりました、いつも急なお願いを聞いて下さり有難うございます』と事務所を後にしようとする、一番奥から立ち上がつてこちらに来る人があり、『やつぱり、聞いた事ある声だと思つた』と発したその人は三十年ぶりに会つた小学校の同級生でした。聞くとう実家を継いで社長として頑張っている様子で、息子と同級生の娘さんがあり、藤田がこの町に居るのは知つた。話したかった。『いつも(お祈り)やつてるよね?あれは何?』、『あれは、道路で交通安全のお祈りさ』と私。『そうかあ、偉いなあ』と彼。心温まる時間でした。戻つて息子にそれを話し、『ガラスが割れたお陰で父さん同級生に会えたよ、ありがとう』と、年祭活動に、にをいがけの出会いを与えて頂けた事を、親様に感謝しました。

もう一つ、これも今月の話。私、保護司をしておりますが、1年半ほど世話をしている二十代前半の男の子がいて、『アパートのポストに天理教と書いた紙が入っていました』と。本部のにをいがけリーフレットです。でも私が配つた地域ではありません。『嫌だつたかい?』と私が聞くと、彼は『大事にタンスにしまいました』と言うのです。『いつもお世話になつてる

保護司さんの天理教だと思つて、僕嬉しくて取つてあります』と。私も嬉しかった。このリーフレットを彼の団地のポストに入れてくれた私の知らない誰か、有難うございます。そして自分も、一枚のチラシにお願いを込めて、もつと勇気を出して配ります。この一枚を喜ぶ人が何処かにきつと居ます。

ここからは、おやさまのお話を。(漫画を見せて) この『教祖物語』愛蔵版。アマゾンでも買えます(笑)。凄いののは初めて出版された時よりも、大幅に絵のページが増えている、細かい所まで本当に良く分かるんです。おやさまの御休息所がお屋敷のどこにあつたか、つとめ場所の後ろに繋がっているのがよく分かります。御休息所の間取りは?おやさまのお布団が敷かれていた部屋は4畳。その手前に8畳の部屋があり、ここで孫のたまへ様(十一歳頃)、と年上でい

がお休みになつておられたそうです。おやさまは時々たまへ様に、たまへさん此処へ来て一緒に寝え、ねむりいいたらおひさにそつとそつちへ連れていってもろたげるから』と仰つて、ご自分のお布団で寝かせて下さつたと、たまへ様が後に思い出を語つていらつしゃいます。それによると、初代真柱となられた真之亮様にも時々、

ある時、二段まで出来上がった石製の甘露台が警察に没収された時、その後暫くは丸く綺麗な小石が、甘露台の代わりに山積みされていたそうですが、それも漫画の絵でよく分かります。人々は河原で綺麗な石を見つけてきて、それをちばに供え、代わりに一つ石を持って帰つて病人の患部をさすつてあげると、不思議なたすけが頂けたとの逸話が残っています。また警察が厳しく出入りを監視していた事によって、手を清める水溜めの鉢に藻が浮いて汚れていたそうです。おやさまを慕い、親神様を信じる一心で、夜中に忍び込んだ信者がその藻の浮いた水で自らの眼病部分をすすいだ所、治つたという話もあります。人々を喜ばさずには帰されんと、いつも何でもお見通しのおやさまが、警察

が休みになつておられたそうです。おやさまは時々たまへ様に、たまへさん此処へ来て一緒に寝え、ねむりいいたらおひさにそつとそつちへ連れていってもろたげるから』と仰つて、ご自分のお布団で寝かせて下さつたと、たまへ様が後に思い出を語つていらつしゃいます。それによると、初代真柱となられた真之亮様にも時々、

ある時、二段まで出来上がった石製の甘露台が警察に没収された時、その後暫くは丸く綺麗な小石が、甘露台の代わりに山積みされていたそうですが、それも漫画の絵でよく分かります。人々は河原で綺麗な石を見つけてきて、それをちばに供え、代わりに一つ石を持って帰つて病人の患部をさすつてあげると、不思議なたすけが頂けたとの逸話が残っています。また警察が厳しく出入りを監視していた事によって、手を清める水溜めの鉢に藻が浮いて汚れていたそうです。おやさまを慕い、親神様を信じる一心で、夜中に忍び込んだ信者がその藻の浮いた水で自らの眼病部分をすすいだ所、治つたという話もあります。人々を喜ばさずには帰されんと、いつも何でもお見通しのおやさまが、警察

ある時、二段まで出来上がった石製の甘露台が警察に没収された時、その後暫くは丸く綺麗な小石が、甘露台の代わりに山積みされていたそうですが、それも漫画の絵でよく分かります。人々は河原で綺麗な石を見つけてきて、それをちばに供え、代わりに一つ石を持って帰つて病人の患部をさすつてあげると、不思議なたすけが頂けたとの逸話が残っています。また警察が厳しく出入りを監視していた事によって、手を清める水溜めの鉢に藻が浮いて汚れていたそうです。おやさまを慕い、親神様を信じる一心で、夜中に忍び込んだ信者がその藻の浮いた水で自らの眼病部分をすすいだ所、治つたという話もあります。人々を喜ばさずには帰されんと、いつも何でもお見通しのおやさまが、警察

ある時、二段まで出来上がった石製の甘露台が警察に没収された時、その後暫くは丸く綺麗な小石が、甘露台の代わりに山積みされていたそうですが、それも漫画の絵でよく分かります。人々は河原で綺麗な石を見つけてきて、それをちばに供え、代わりに一つ石を持って帰つて病人の患部をさすつてあげると、不思議なたすけが頂けたとの逸話が残っています。また警察が厳しく出入りを監視していた事によって、手を清める水溜めの鉢に藻が浮いて汚れていたそうです。おやさまを慕い、親神様を信じる一心で、夜中に忍び込んだ信者がその藻の浮いた水で自らの眼病部分をすすいだ所、治つたという話もあります。人々を喜ばさずには帰されんと、いつも何でもお見通しのおやさまが、警察

をかいくぐってでもおちばに帰った人々を救って下さった親心が偲ばれます。

これから私達は「おやさま百四十年祭」を迎えますが、その日おやさまに、「頑張りました」とご報告出来るように、かつて命懸けで教えを守り抜いてくれた先人の後に続いて、自分も世の中のたすけに繋がる、親切の積み重ねを続けて行きたいと思えます。

かつて、二代真柱様が訓話の中で、『内にたんのう、外に親切』と仰いました。内とは、心の中。たんのうは「喜べない事を喜ぶ」心づかい。何が苦しくとも、今、

生きている事を喜ぶ。外とは、体の外。親切とは「見返りを求めない」心づかいと思えます。

『教典』を私達はどれだけ読むでしょうか？二代真柱様は、『心に神一条の筋金を入れる』為に教典を編纂して下さいました。心に筋金が入るとは、もう二度と曲がらないという事。親神様の思召を聞き、素直になっても、心が汚れば、ぐにやぐにや曲がってしまう自分の心に、真つ直ぐな鉄芯が通り曲がらなくなる。教えを自分の都合で曲げてはいけません。私達は、何があっても喜びを探し、何をしても見返りを求めない。それが、神一条の筋金というもので

平成元年に会長に就かれてからは、毎月おちばがえりを心定めなされて、よくフェリーのライラックパックを利用して船旅を楽しんでおられました。大教会では祭儀掛として、御神饌の調饌とチャンポンをピカピカに磨くのお役目として精励していただく姿が浮かびます。



訃報  
北弘分教会五代会長  
中村 清様  
享年九十七歳

北弘分教会5代会長、中村清先生が、10月10日、眠るように出直されました。享年は97歳でした。

先生はエイ夫人が4代会長になる前から、北弘に住み込まれ、

しよう。親神様一筋の心とは『日の寄進』の心。生かされている身体のご恩を返そう返そうと、周りの人を手助けする態度です。

にをいがけは、チラシを持ってポストに向かつて勇気を出せば、おやさまがたすけて下さいます。たすけて欲しいと困っている人は、親神様が教会へ連れて来て下さいます。『きつとこの子は人に親切に生きてくれる』、『きつとこの子なら私の心を分かってくれらる』と、期待をしてきてくれるのは親神様の方です。私はただ、神様の通り道をつける為に本部へ、おたすけ先へ、にをいがけ先へと、足を運ぶだけです。自分よりも、人の顔を立て、底なしに親切に生きてみたいのです。

夏に、天理教の神棚を処分したいと、他系統の教会で昔信心していたご夫婦の娘さん(すでに老齢ですが)という方が、旦那さんと共にうちへ来ました。出直したご両親を今後は神社の社を買って、神社で面倒見てもらおうと。なんて残念なと思いました。相手の顔と、神社さんの顔も潰さぬよう、全て承知してうちの祖霊殿に安置して霊様に祭文をあげ、『これからは神主さんにお世話になって下さいね』と、神棚を無償で引き取っ

たすけ推進会議

て差し上げました。すると最後の時になってポロポロと娘さんが泣きだし、『もっと早く先生に出会っていたら私、天理教をやめませんでした。また来てもいいですか？色々な悩みを聞いて下さい』と。『勿論どうぞ』と答えました。

世界一れつはきようだい、他人と言いはさらさら無いぞとおふでさきにある通り、底なしの親切でこれからも進んで参ります。』と話された。(藤崎勇)



廻廊ひのきしん (10月25日)

にをいがけ実動について

◇活動報告  
日時：10月30日 10時～15時  
場所：夕張大教会  
参加人数：3名  
内容：神名流し、戸別訪問(55件)  
◆次回以降実施予定  
日時：11月30日 10時～15時  
12月28日 時間未定  
集合場所：夕張大教会

庶務部 10月

- ▽修養科第一〇一三期 11・1
- 松尾 大介 (継立)
- ▽初席 金子 理人 (清真布) 10・26
- ▽おさづけの理拝戴 安藤喜久夫 (馬追) 10・27
- ▽詰所ひのきしん 井内 智美 (上富良野) 10・24～25
- ▽をまもり 1件
- ▽おびや 1件
- ▽詰所教養掛 11月 佐藤大輔 (上富良野)
- 12月 岩佐善昭 (志加ノ谷)

大教会目録抄 10月

- 1日 たすけ推進会議
- 3日 会長、上富良野分巡教
- 4日 組例会
- 5日 会長、清真布分巡教
- 6日 会長、幌部分巡教
- 7日 会長、旭部分巡教
- 8日 会長、峰延分巡教
- 11日 会長夫人、長沼分巡教
- 11日 会長、祝梅分巡教
- 11日 会長、理喜道分巡教
- 12日 会長、馬追分巡教
- 13日 会長、幌向分巡教
- 14日 秋季大祭準備
- 15日 秋季大祭
- 17日 会長、夕喜元分巡教
- 19日 会長、関東五十日祭
- 21日 会長夫人、札幌秋季大祭
- 21日 会長、おちばへ
- 22日 会長、本部神殿当番
- 23日 会長夫人、おちばへ
- 24日 五代会長始め十一柱、本部祖霊殿合祀祭
- 25日 会長夫人、帰会
- 27日 本部秋季大祭、遥拝式
- 28日 会長、かなめ会
- 29日 会長、雅道会
- 31日 会長、帰会
- 日 たすけ推進会議

# 誰かのたすかりを願う

## 第99回青年会本部総会

10月25日に本部中庭で青年会総会が開催されました。夕張分会からは会員7名で参加しました。式典では青年会長様のご告辞、真柱様のメッセージがあり、その後、神殿にて大亮様を芯にお願いづとめがつとめられました。お願いづとめでは、各分会から集めた「おたすけ願」をお供えし、身近な人たちのたすかりをお願いさせていただきました。

式典後は、夕張詰所にて大垣分会との合同懇親会を開催しました。懇親会ではまず、「対話の時間」を行い、大垣分会と練り合いをしました。

他分会と交流する機会はありませんので、新鮮な経験をさせてもらえました。その後、鍋を囲み、親睦を深め、楽しい時間を過ごしました。初めての試みではありましたが、「良かった」、「楽しかった」という声をたくさんいただき、実りのある会となりました。(高橋悟志委員長)



西境内地で記念撮影



家族連れで和やかな雰囲気の中、大垣分会との懇親会



スタッフとともに楽しそうにハンカチ落としをする子どもたち

(団長・藤田)

10月19日の鼓笛練習には、少年会員10名、育成会員9名が参加しました。  
おつとめ鳴物練習、リトミックやリズムに合わせた足踏み練習を行い、休憩を兼ねたハンカチ落とし遊びのあと、ファイフの練習に取り組みました。ファイフはまず音を出すことが最初の難関ですが、投げ出すこと無く、粘り強く練習を続け、短い時間のうちにもみんな上達の様子が見られました。  
今回の練習は11月29日で、今年の締めくくりとなります。  
来年は、新曲となることもおちばがえりテーマソングの練習も始める予定です。どうぞお誘い合わせのうえ、たくさんのご参加をお待ちしています。【鼓笛スタッフ募集！新曲練習しましょう！】

### 鼓笛活動を通して みちの子の育成を



感話に立つ、中川会長（南空知会場）

(岩佐)

11月1日または2日、全国各地において第五回ようぼく一斉活動日が開催された。  
南空知支部(11月1日開催)では、夕張大教会を会場とし、おつとめなどが勤められた後、中川俊章・理の華分教会長が感話に登壇。中川家の信仰の元一日と、年祭活動期間中に見せられた節を通じ、成人への一歩を踏み出した自らの体験を力強く参加者へ伝えた。  
旭川支部(11月2日開催)では、屋根の下に3日前の雪が残る寒さ、ストーブの周りは熱く、遠い方は少し寒い様子。100人程の参加者は、中田一講師(本部准員)のおちばやブラジルの信仰についての熱のこもったお話に引き込まれて、時間を忘れるほどであった。

### いよいよ年祭へ—— 第五回ようぼく一斉活動日



雅夕会、雅頌会、合同演奏の様子

10月28日、兵庫県たつの市『アークホール』にて、第24回雅道会発表会が開催され、雅夕会(夕張大教会雅楽会)から2名が参加。宇仁大教会の雅頌会と、『盤渉調千秋楽』を合同演奏し、繊細かつ華やかな音色を会場に響き渡らせた。  
雅道会とは、兵神大教会および、兵神大教会から分離陞級した大教会それぞれが雅楽会からなる活動であり、技術向上と交流を目的として、毎年発表会が開催されている。コロナ禍をきっかけに不参加が続いていた雅夕会であったが、久々の緊張感溢れる雰囲気多くの刺激を受け、雅夕会の活動を、今後さらに盛り上げていきたいとの思いを新たにしたい。(岩佐)

### 雅な音色奏で思い新たに 第24回雅道会発表会